

ひきこもり者の社会参加支援及びひきこもり支援従事者研修による作業療法士のひきこもり支援への参画拡大に関する取り組み

児嶋 亮 ●一般社団法人京都府作業療法士会 ひきこもり支援OTチーム 代表



ひきこもり当事者とともに運営する商店街でのマルシェ

地域医療貢献のポイント

推計146万人と言われるひきこもり者への支援には、生物学、心理学、社会学的視点が必要であり、精神科分野のリハビリテーション専門職である作業療法士(OT)のひきこもり支援体系への参画と育成により、当事者および家族、支援者への支援の充足に寄与する。

1. 背景と目的

日本では推計146万人がひきこもり状態にある¹⁾とされる。就労機会の喪失、孤立、孤独などの社会的要因によって、誰もがなり得る社会課題であることがあらためて示された。ひきこもりは、複合的な背景要因により生じた生きづらさに対する当事者なりの対処行動の一つであり、その支援には生物学、心理学、社会学的視点が必要である。精神科分野OTは、ひきこもりを含む生きづらさを抱える当事者の社会参加支援を実践しているが、ひきこもり支援に関する教育の体系的な実施には至っていない。

よって、ひきこもり支援の拡大につながる地域実践と、ひきこもり支援に習熟した医療専門職の育成を目的とした学びの機会を確保する必要がある。京都府作業療法士会ひきこもり支援OTチームは、2018年よりひき

こもり当事者、親、支援者などへの支援と地域活動支援、ネットワークづくりへの参画とともに、京都府下のOTへのひきこもり支援の啓発と育成を進めている。ひきこもり支援に精通したOTの育成を進めつつ、それを当事者を含む関係者や周辺地域へと波及させていきたいと考える。

2. 取り組みの方法

- ひきこもり支援団体が運営する居場所の運営補助
- ネットワーク会議の運営補助と助言
- 地域の活性化とひきこもり支援を目的としたマルシェの運営補助と助言
- ひきこもり支援者向けの研修会および交流会
- 全国のひきこもり支援に従事するOTの実践報告とそれを学べる学会の主催

3. 期待される成果

- 地域活動において、医療的な観点からの助言とサポートを提供
- ひきこもり支援に従事する行政及び支援団体職員のメンタルヘルスへの働きかけ
- 医療を必要とするひきこもり当事者への適切な治療提供およびひきこもりの早期介入と長期化予防
- 精神疾患の早期介入、早期治療による心身機能および社会機能の低下予防
- 地域住民へのひきこもり支援の啓発および支援の選択肢の拡大
- 医療における精神科リハビリテーションに従事するOTのひきこもり支援の知識技術のアップデート
- 全国の多様な支援と京都のひきこもり支援を相互理解する機会提供および全国のひきこもり支援の実践への効果の波及